

「社会調査実習報告書」に関して

「本報告書の特徴」(p.4)でも述べられているように、今回の調査は東京大学教育学部比較教育社会学コースにおける「社会調査実習」の授業で、学生がコースのスタッフやTA(ティーチング・アシスタント)の指導を受けながら実施したものです。学生たちは調査データを自ら分析し、レポートを執筆し、報告書(東京大学教育学部比較教育社会学コース編『都立高校生の生活・行動・意識に関する調査報告書』、以下「社会調査実習報告書」と表記)にまとめています。この報告書は2008年5月の大学祭で実施したシンポジウムにて、来場者に配布されました。

本報告書の「調査結果の概要」(p.8~19)は、「社会調査実習報告書」から引用し、加筆・修正を行ったものです。「社会調査実習報告書」では、第1節を山岡直登・大谷千明が、第2節を小川和孝・森杏菜・山口麻子が執筆しました。また、第I部から第III部において学部生6名が執筆した原稿も、「社会調査実習報告書」でのレポートに加筆・修正を行ったものとなっています。そのほかにも、簡単な度数分布や二重クロス表などでは、重複する分析が存在します。なお、データの処理を若干変更している部分があるため、「社会調査実習報告書」と本報告書の数値が正確には一致しない箇所も見られます。

「社会調査実習報告書」の執筆者および分析テーマは下記のとおりです。

- 阿久津純一 都立高校生の対人関係能力の研究——その規定要因と操作可能性に着目して
- 大藪 勇輔 高校生の進路探索行動を規定する要因——高校入学理由と交友関係に着目して
- 大谷 千明 クラスの一体感が生徒の自己肯定感に与える影響——生徒の実感の差に注目して
- 小川 和孝 高校生の学校内/学校外の経験が「意欲」に与える影響——行事・趣味・友人関係について
- 小原 史靖 高校生とスピリチュアリティ——それは私たちの友人となりうるのか
- 白井みなみ 自己実現教育の負の効果——理想と現実のギャップに苦しむ高校生像
- 鈴江 由貴 愛校心は芽生えるか——高校受験時の進路指導に注目して
- 田代 佳子 異質な他者への寛容性の形成——国際理解教育の有効性を問う
- 野津 直樹 男子高校生の制服着用行動——「高校生」への帰属意識に着目して
- 早野 綾子 小学校における新学力型の授業は効果があるのか——高校生の問題解決的態度に注目して
- 福田 志織 指導実態と生徒の満足との関係——リソースとアスピレーション概念に着目して
- 森 杏菜 高校生の意欲と将来の志向性——特別活動参加プロセスに着目して
- 山岡 直登 キャリア教育は職業的社会化機能を果たしているのか——現行キャリア教育の批判的検討
- 山口 麻子 テスト勉強の理想と現実——どんな生徒がギャップに悩むのか
- 山田 勝幸 地元からの離隔にみる「通にくさ」の研究——通学時間、友人数、塾・習い事経験に着目して

(五十音順)